

平成２２年度
長期優良住宅等推進環境整備事業
(住替え・二地域居住の推進)

成 果 報 告 書

高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業

平成２３年３月８日
清流高津川を育む木の家づくり協議会

高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業報告書

《目 次》

1. 清流高津川を育む木の家づくり協議会について	1
2. 高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業の事業計画	1
3. 事業実施内容	2
3－1. 二地域居住型（高津川流域型）クラインガルテンの整備のための調査	2
① 地域選定調査の実施	2
② クラインガルテン（ラウベ）整備に係る視察研修会の開催	8
③ 養老孟司先生の“現代の参勤交代論”（二地域居住）の実現を目指すモニターツアー	17
3－2. シンポジウム、集落座談会の開催	38
① シンポジウム「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」の開催	38
② 集落座談会の開催	41
3－3. 広報活動	42
① 「現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ」高津川流域ノートの作成	42
② 二地域居住に関する取組み及び空き家情報の発信、並びに空き屋情報の収集	42
4. 本事業の成果と課題	43
5. 今後の活動の方向性	44

《資 料》

1. 清流高津川を育む木の家づくり協議会会則	46
2. 協議会会員名簿	47
3. 清流高津川を育む木の家づくり協議会実施体制図	48
4. 益田市匹見上地区でのクラインガルテン構想（案）	49

1. 清流高津川を育む木の家づくり協議会について

高津川流域は、清流高津川を軸として、豊かな森林や広大な農地と、この地形固有の色合いを持つ石見の「赤瓦」の家並みとが一体となった特長ある景観を形成しており、源流から河口までの関係者が連携し、地域産木材を利用した住宅の建築促進や林業の活性化、有機農業の普及とこれを活かした定住促進に取り組んできている。

「清流高津川を育む木の家づくり協議会」は、島根県西部の高津川流域の工務店4社、設計事務所2社、製材所3社、原木市場1社、高津川森林組合、益田市、津和野町、吉賀町、高津川流域林業活性化センターの15の団体で構成されており、平成21年3月発足以降、協議会の活動目的である高津川流域の森や水の保全に資する流域材の住宅等への活用や、流域資源を活用した地域の発展を目的とし、活動を行ってきている。

本事業では、協議会の活動内容の一つである「高津川流域におけるニューツーリズムの推進に関すること」に取り組むため、都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進を図ることを目的とする。

2. 高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業の事業計画

(1) 事業の目的

都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進のため、養老孟司先生の“現代の参勤交代論”の実現を目指し、シンポジウム、地域座談会等を開催し、高津川流域で、国の成長戦略のモデルともなり得るよう取組みを実践する。

具体的なコンセプトとして、都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進を図り、高津川流域材を使用した体験宿泊型クライנגアルテンの整備を実践することで、定住、地域経済の活性化にまでつながる起爆剤とする。

(2) 事業効果

都市と農村を結ぶ二地域居住の効果がPRされ、高津川流域材を用いた木の家づくり等の機運が一層高まる。さらには以下のような効果も期待される。

1. 来たるべき大地震期に備えて災害時の避難地ができ、田舎と「第二の親類」のような関係ができる。
2. 「クライנגアルテン」などのような「市民農園」に通うことで、精神の健全化と食料自給の手法を確立できる。

(3) 事業の内容

① 二地域居住型（高津川流域型）クラインガルテンの整備のための調査

都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進のため、有機農業や高津川流域材活用を視点とした体験宿泊型クラインガルテンの整備に資するモデル地域の選定調査等を行う。

② シンポジウム、集落座談会の開催

啓発シンポジウムの開催や各地域において地域住民とともに集落座談会を開催し、簡易な宿泊体験施設等の普及啓発を図りながら、地域住民の理解を得るとともに、高津川流域の地域活性化を図る。

③ 広報活動

市町ホームページ等により、都市等に空家バンク制度等の情報発信を行うとともに、新聞広告等によりU・Iターン希望者の集積（リスト作成）等を行う。

(4) 実施体制

【清流高津川を育む木の家づくり協議会】

・株式会社リンケン・高津川森林組合・有限会社万設計・大畑建設株式会社・有限会社住宅産業・株式会社森本建設・株式会社益田原木市場・株式会社佐々木馬一商店・株式会社又賀製材所・安野産業株式会社・百合本建築設計・高津川流域林業活性化センター・益田市・津和野町・吉賀町

[協力：「木の家づくりを進めるための社会システム構築を目指す委員会」]

【高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会】

・益田市・津和野町・吉賀町・高津川森林組合・株式会社リンケン

3. 事業実施内容

3-1 二地域居住型（高津川流域型）クラインガルテンの整備のための調査

① 地域選定調査の実施

都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進のため、益田市の各地区振興センター（公民館）に趣旨を説明したうえで有機農業や高津川流域材活用を視点とした体験宿泊型クラインガルテンの整備に資するモデル地域の選定調査、意向調査等を地域と連携した体制で実施し、6地区を選定。

■調査対象地区：美濃地区／安田地区／鎌手地区／種地区／小野地区／二条地区／高津地区／北仙道地区／西益田地区／真砂地区／東仙道地区／都茂地区／二川地区／匹見上地区／匹見下地区／道川地区

■選定地区：安田地区／種地区／北仙道地区／真砂地区／都茂地区／匹見上地区

■調査実施日：平成22年10月25日～平成22年10月29日

調査内容及び調査結果については下表のとおり。

表 3 - 1 地域選定調査結果一覧

地域選定調査結果（旧益田地区）		
高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会		
地区名	調査内容	選定結果
美濃地区振興センター	・Ｉターン者：なし ・有機農業者：なし ※無農薬栽培（１名） ・地域イベント：あり ・都市との交流：なし ・地域活性化組織：なし ※地域活性化に対して、思いのある人はいるが美濃地では難しい。 ※地域に核となる人がいない。 ・集落座談会の開催：不可能 ※市長と語る会においても、参加者が少ないので難しい。 ※気持ちのない方に対して座談会参加への呼び掛けは難しい。 ※意識を向ける取組みは行いたい・・・	
豊川地区振興センター	・雑感 - 地区センター長におかれては、地域活性化に対する熱い思いはあるが、当該地域での二地域居住の普及促進は困難と感じた。	
安田地区振興センター	・Ｉターン者：あり（農業者ではない） ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・都市との交流：なし ・地域活性化組織：あり ※農地ネットワーク（１０人）菜種、からしなを栽培し地域活性化に貢献 ※安田農業小学校（農業指導員：松崎正氏）で安田小児童を対象とし作物を作って食べるだけではなく利用方法まで指導。 ※技術的なことを教えてあげられる方も多い。 ・集落座談会の開催：可能 ※集落座談会の開催等に際しては地区振興センターとしても地域住民への周知など協力することのこと。	○
鎌手地区振興センター	・Ｉターン者：あり ・有機農業者：あり（１名） ※秀明自然農法（水見勉氏）で米作り、野菜作り、ウコン栽培を行っている。 ・地域活性化組織：なし ・集落座談会の開催：不可能 ※地区センター長から、ステップをふんで座談会の開催ならいいが、今はその段階ではないとの意見あり。	
種地区振興センター	・Ｉターン者：あり ・有機農業者：あり ※ヘルシー元気米あり ※数年前までは有機農業者あり（３０人） ※センター長所有のハウス（無農薬）の利用ができることのこと。 ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：あり ・都市との交流：なし ※都会居住者を起点に種の米を食してもらうとともに、種地区で製造されている農産加工品の県外への販売ルートを開拓し、都市との交流、定住につなげていきたいとのこと。 ・集落座談会：開催可能 ※座談会の前に選定箇所の土地所有者の承諾が必要 ※集落座談会の開催等に際しては地区振興センターとしても地域住民への周知など協力することのこと。	○

小野地区振興センター	・Ｉターン者：あり ※匹見町から１名 ※喜阿弥町（住宅団地）には地域外の方も多い。 ・有機農業者：あり ※畜産（下瀬氏）、藤岡氏（新しい農業に意欲的な方） ※休耕田を活用すれば出来ないこともない。 ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：なし ※地域外の人を対象とし漁業体験が行われている。 ※地域でのリーダー的存在の方がいない。 ・都市との交流：なし ・集落座談会の開催：不可能 ※戸田地区については、地域の皆で取組みにくい地域（地域ムードが難しい） ※地域での危機感がない。 ※地域外から人を呼んでという地域ではない。 ・雑感 海、山があり条件は整っていると思われるが、センター長の意見をお聞きした上で、当該地域での二地域居住の普及促進は困難と感じる。	
二条地区振興センター	・Ｉターン者：あり ※イギリスから定住（荒地を開墾し農業もしている） ※塾講師 ・有機農業者：なし ※米生産一本でやってきた地域 ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：なし ※運営委員会組織あり（講演会の開催等） ・都市との交流：なし ・集落座談会の開催：不可能 ※高齢化により出てこれない方も多数 ※次の世代が育っていない ※主体が市であるような方策が必要 ※地域へのメリットがないと・・・ ・雑感 地域内においては、農事組合法人を立ち上げ農業に意欲的な方もおられるが、センター長の意見をお聞きしたうえで、当該地域での二地域居住の普及促進は困難と感じた。	
高津地区振興センター	・Ｉターン者：情報なし ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：あり ※石見環境を守る会 ・都市との交流：なし ・集落座談会の開催：可能 ※選定された場合には、地区振興センターとしても協力するとのこと。 ・雑感 空港周辺地区で、交通手段も確立されており、海、山も近いので、二地域居住の普及促進には適した地域と思われる。 しかし、当該地域の交通手段以外のキーワード、魅力とは・・・	

西益田地区振興センター	・Ｉターン者：不明 ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：なし ・都市との交流：なし ・集落座談会の開催：不可能	
真砂地区振興センター	・Ｉターン者：あり ※３家族 ・有機農業者：なし ※減農薬あり ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：あり ※真砂人 ・都市との交流：あり ※神奈川県川崎市、広島県 ・集落座談会の開催：可能 ※選定された場合には、地区振興センターとしても協力すること。	○

地域選定調査結果（美都地区）		
高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会		
地区名	調査内容	選定結果
東仙道地区振興センター	・リターン者：なし ・有機農業者：あり ※農事組合法人ゆいの里美都（アイガモ農法：有機認証） ・地域イベント：あり ・都市との交流：あり ※広島益田会での交流 ※かがやき（国道１９１号線沿いの各地区振興センターで組織） ・地域活性化組織：なし ・集落座談会の開催：不可能 ※地区外からの受け入れについては難しい。	
	・雑感 当該地域については、近隣に温泉施設もあるが、選定土地もなく道路が狭いとのことであった。 また、農事組合法人ゆいの里美都を主体として、水稲が盛んな地域であるが、他地域のからの受け入れは難しいと思われる。	
都茂地区振興センター	・リターン者：なし ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・都市との交流：あり ※広島益田会での交流 ※かがやき（国道１９１号線沿いの各地区振興センターで組織） ※そばサミット ・地域活性化組織：なし ・集落座談会の開催：可能 ※集落座談会の開催等に際しては地区振興センターとしても地域住民への周知など協力するとのこと。	○
	・雑感 地区振興センター長は、リターン者であり自宅でも有機家庭菜園に取り組んだり、１０／１７開催の二地域居住シンポジウムにも参加され、二地域居住などの取り組み等、何かを行うことで地域を活性化させようと模索されている。 当該地域において、二地域居住の普及促進を図っていくうえでは、近隣にある温泉施設も魅力の一つと思われる。	
二川地区振興センター	・リターン者：あり ※広島（１名） ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・都市との交流：あり ※広島（高校生を招いて柚子を使った料理を考えていただく） ・地域活性化組織：あり ※二川の未来を創る会（２６名） （平成１９年１２月 二川まちづくり提言書） ・集落座談会の開催：不可能 ※地区外からの受け入れについては難しい。	
	・雑感 当該地域については、近隣に温泉施設もあるが、地区外の方を受け入れにくいとのことであった。 また、二川の未来を創る会を中心に、地域活性化のため様々な活動等を行っている。 「二川まちづくり提言書」に基づき地域において、地域活性化のための継続した取り組みを行っていただければと思う。	

地域選定調査結果（匹見地区）		
高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会		
地区名	調査内容	選定結果
匹見上地区振興センター	・Ｉターン者：なし ・有機農業者：なし ※アイガモ農法あり（アイガモ鴨の会） ※クラインガルテンの整備をした上での有機農業化は可能。 ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：あり ※萩の会（郷土料理・自然体験）等 ・都市との交流：あり ※高槻市 ・集落座談会の開催：可能 ※選定された場合には、地区振興センターとしても協力するとのこと。	○
	・雑感 - 当該地域は国定公園等もありクラインガルテンを整備する上では、自然との調和も生まれ、景観的にもよいのではないかと。 - また、温泉施設、郷土料理（ソバ等）もあり、モニターツアーを開催する上でも好条件と思われる。	
匹見下地区振興センター	・Ｉターン者：あり ※溪流釣（鮎・ヤマメ）目的 ・有機農業者：なし ※ヘルシー元気米（減農薬）あり ・地域イベント：あり ※鮎の友釣り大会等 ※川の資源を活用したイベント多数 ・地域活性化組織：あり ※ふるさとを興す会（約４０人） ※廃校利用のため広島県へ視察 ※内容谷とちの実会（農家民泊） ・都市との交流：あり ※川崎市（ふるさと教育：川遊び、温泉等） ・集落座談会の開催：可能 ※選定された場合には、地区振興センターとしても協力するとのこと。	
	・雑感 - 当該地区においては、地域資源も多く魅力は豊富にある。 - 限界集落もあり、地域が一つになれるかが課題であると思われる。 - 集落座談会、モニターツアーの開催については難しいと思われる。	
道川地区振興センター	・Ｉターン者：あり ※広島からのＩターン者多数 ・有機農業者：なし ・地域イベント：あり ・地域活性化組織：あり ・都市との交流：あり ※広島県 ・集落座談会の開催：不可能	
	・雑感 - センター長から冬が厳しいので推薦できないとの意見もあった。 - 当該地域は広島にも隣接しており、二地域居住の普及促進を図るうえでは好条件と思われるが、座談会等の開催は難しいと思われる。	

② クラインガルテン（ラウベ）整備に係る視察研修会の開催

全国の滞在型クラインガルテンや有機農業等の推進に係る先進的な事例を見て学ぶため、県内県外での視察研修会を開催。

■開催場所：島根県飯南町／志都の里クラインガルテン

■実施日：平成22年8月11日

■参加者数：18名



飯南町の方と、(有) 志都の里取締役からの概要説明と意見交換会。



現在20棟のラウベと20区画の農園で運営。交流イベントも実施されている。

畑もよく管理されており、色々な作物を作っておられた。

運営にはたくさんの苦労があるようだが、高津川流域でも林・農連携によるこのような地域活性化策も切り口としてやりがいはあるように思われる。

■開催場所：山口県錦町／グリーンピアやまざと

■実施日：平成22年8月24日

■参加者数：13名



ラウベ付農園5区画のグリーンピアやまざと。地区組織が運営を行っている。

■開催場所：山口県周防大島町／ガルテンヴィラ大島

■実施日：平成22年8月24日

■参加者数：13名



ラウベ付農園12区画で営農指導もされている。島根県の方も利用されているとのこと。

この近隣にある2つのクライנגルテンを視察することで、高津川流域にふさわしく、他地域に対抗できる、より良い形を見つけることが肝心だと思った。

■開催場所：長野県松本市／緑ヶ丘クライנגルテン、坊主山クライングルテン

■実施日：平成22年10月12日～14日

■参加者数：13名



松本市の方からの概要説明と意見交換会。



ラウベ付農園78区画の緑ヶ丘クライングルテン。豊かな自然に囲まれている。



ラウベ付農園53区画の坊主山クライングルテン。農園もよく管理されている。

■開催場所：新潟県小千谷市／おぢやクラインガルテンふれあいの里

■実施日：平成22年10月12日～14日

■参加者数：13名



小千谷市の方からの概要説明と意見交換会。



指導員による栽培講習もある84区画の日帰型農園が整備されている。



ラウベ付農園30区画のおぢやクラインガルテン。多目的広場も整備されている。

■開催場所：茨城県笠間市／笠間クラインガルテン

■実施日：平成22年10月12日～14日

■参加者数：13名



笠間市の方からの概要説明と意見交換会。



50区画の日帰り市民農園も整備され、地元農家による有機無農薬栽培サポートがある。



ラウベ付農園50区画の笠間クラインガルテン。目標設定「日本一のKG」を目指す。

各市のクライנגアルテンについては、都市部との交流を行う場として地域活性化の重要な役割を担っていた。都市住民の食の安全・安心の意識が高まる中で「有機農業」というキーワードがあり、有機だから当該施設を選定したという利用者も多かった。

全国に数あるクライングアルテンの中で、都市住民がこの高津川流域を選ぶためには、他地域のクライングアルテンに負けない、何かのキーワードを探さることが必要となる。

■開催場所：中央合同庁舎 3 号館 10 階・共用会議室

■実施日：平成 22 年 12 月 16 日

■議題：二地域居住・都市居住で木の家づくりが促進される社会の課題について

■参加者数：6 名



本事業の目的である養老孟司先生の“現代の参勤交代論”の実現を目指すため、“木の家づくり”から林業再生を考える委員会の養老孟司委員長、天野礼子委員長代理、松本公一氏（島根県農林水産部次長）、福原圧史氏（NPO法人「ゆうきびと」代表）からの意見発表を傍聴することで、地域の高齢者をはじめ多くの人々の生活や活動の場の創設と交流人口や定住人口の増加につなげる高津川流域でのクライングアルテンのイメージ作りを具体的に進めていくことができた。

■開催場所：高知県土佐郡土佐町／有機のがっこう「土佐自然塾」

■実施日：平成23年2月8日～9日

■参加者数：14名



有機のがっこう「土佐自然塾」 山下一穂氏からの概要説明と意見交換会。



山下農園を見学。

山下一穂氏の“超かんたん有機農業”を学ぶことで、高津川流域でも「有機農業」を一つのキーワードとして掲げ、安全・安心な有機無農薬農産物の栽培を高津川流域で推進し、有機農業に対する流域住民の意識改革を行うことが重要である。

■開催場所：高知県高知市／高知市有機市民農園

■実施日：平成23年2月8日～9日

■参加者数：14名



高知市の方からの概要説明と意見交換会。



高知市有機市民農園を見学。



農園規模 全体：4,000 m² 貸出区画 50 m²×48 区画（1 区画当たり年間 12,000 円）

地域の耕作放棄地を自然と共生できる地域資源（有機市民農園）として再生し、これを地域内外の交流拠点とするとともに、有機栽培の体験を通して、流域住民に有機農業及び有機農産物への理解を深め、食の安全や環境保全への取組みを行うことが必要である。

■開催場所：愛媛県今治市／今治市における地産地消、食育、有機農業等の取組み

■実施日：平成23年2月8日～9日

■参加者数：14名



今治市の方からの概要説明と意見交換会。



「彩菜市民農園」を見学。



「いまばり市民農園」（現在 71 区画） 農薬や化学肥料を使用しないことが入園条件。

高津川流域において、有機農業を推進していくためには本来の農業の仕方、食べ方、暮らし方の追求をし、集落や地域の人が、その集落や地域の農業の仕方、食べ方、暮らし方はどうだったかを点検し山村の本来の生き方ができれば、都市の人は感動し交流が始まると思われる。

③ 養老孟司先生の“現代の参勤交代論”（二地域居住）の実現を目指すモニターツアー。

二地域居住（クライナガルテン整備）推進の参考とするため、モデル地域選定調査を踏まえた益田市6地区及び津和野町、吉賀町において、実際に関西圏、関東圏、広島県からモニターツアー客を招き、ラウベモデル見学、農業体験及びアンケート調査等を実施。

■実施日：平成22年12月3日～5日

■開催場所：益田市・津和野町・吉賀町

■参加者数：23名（東京都・町田市：2名、東京都・世田谷区：1名、神奈川県・川崎市：8名、大阪府・高槻市：7名、大阪府・門真市：1名、大阪府・茨木市：2名、広島県・広島市：1名、広島県・廿日市市：1名）

■ツアーチラシ

日本で初の試み！！
島根県高津川流域（益田市・津和野町・吉賀町）
養老孟司先生の“現代の参勤交代論”
（二地域居住）の実現を目指すモニターツアー
（国土交通省助成事業活用）

モニター募集！

参加費（モニター価格）：5,000円/人

○先着30名様限定（神奈川県・大阪府・広島県/各10名）
 ○申込み締め切り：11月26日（金）
 ※当ツアーは二地域居住（クライナガルテン整備）推進の参考とするためのモニターツアーですので、アンケートや意見集約にご協力願います。

クライナガルテンイメージ

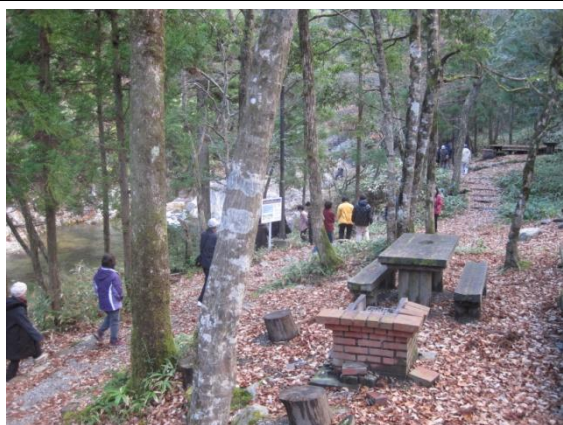
日付	スケジュール	食事
12/3 (金)	羽田空港・大阪空港（飛行機）⇒ 萩・石見空港（バス）⇒ 匹見峡温泉やすらぎの湯（泊） 広島駅（バス）⇒ 萩・石見空港合流 （※移動中や宿泊先で事業説明等を行います。）	朝 × 昼 × 夕 ○
12/4 (土)	匹見温泉⇒匹見地区（わさび漬体験）⇒津和野町なごみ温泉/昼食（1ターン者との意見交換会）⇒津和野町稲成神社⇒吉賀町柿木村有機農園（農業体験）⇒小型木造住宅（クライナガルテン小屋モデル）見学⇒流域木材生産現場見学⇒吉賀町むいかいち温泉ゆ・ら・ら（泊） （※移動中に流域の自然環境等の説明や宿泊先で意見交換等を行います）	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
12/5 (日)	むいかいち温泉⇒益田市安田地区（市民農園見学）⇒益田市種地区（草もち作り体験）⇒益田市北仙道地区（そば打ち体験）⇒益田市都茂地区（柚子の収穫作業体験）/昼食⇒益田市真砂地区（豆腐づくり体験）⇒萩・石見空港（飛行機）⇒大阪空港・羽田空港 又は⇒広島駅 （※後日アンケートやモニターツアー参加報告書を提出していただきます）	朝 ○ 昼 ○ 夕 ×

※日程的にタイトな内容であり、十分な体験・見学にならない場合もあることをあらかじめご理解の上、ご協力をお願いいたします。

主催：清流高津川を育む木の家づくり協議会
 （構成員：益田市/吉賀町/津和野町/流域内関係11事業体/高津川流域林業活性化センター）

お問合せ・申し込み先
 二地域居住推進部会（益田市） 事務局：長谷川 TEL:0856-31-0311 FAX:0856-24-0452

【12月4日】



益田市匹見町「裏匹見峡散策」



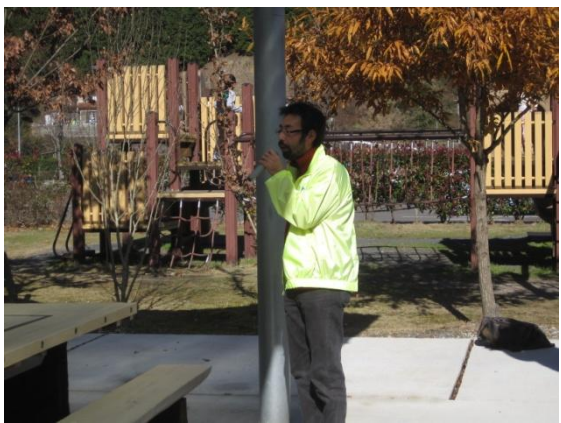
益田市匹見上地区「わさび漬け体験」



高津川森林組合「日原製材所視察」



津和野町稲成神社の視察。



津和野町「なごみ温泉でIターン者との意見交換会」



吉賀町柿木村での有機農業の取組みに関する説明会。



吉賀町柿木村「有機農園での農業体験」



吉賀町柿木村「小型木造住宅（クラインガルテン「ラウベ」モデル）見学」

【12月5日】



益田市安田地区「市民農園見学」



益田市種地区「草もち作り体験」



益田市北仙道地区「そばうち体験」



益田市美都町都茂地区「ユズの収穫体験」



益田市真砂地区「豆腐作り体験」



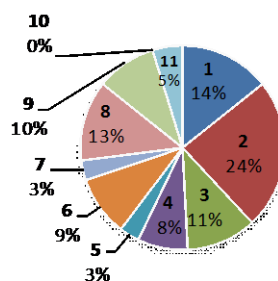
調査内容及び調査結果については下表のとおり。

■モニターツアーアンケート回答結果

養老孟司先生おすすめの“現代の参勤交代論” 「高津川流域への二地域居住・Uターン」に関するアンケート 回答結果																											
あなたの年齢を教えてください。																											
<table border="0"> <tr><td>◇ 30歳未満</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ 30歳代</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ 40歳代</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ 50歳代</td><td>3 人</td></tr> <tr><td>◇ 60歳代</td><td>14 人</td></tr> <tr><td>◇ 70歳代</td><td>6 人</td></tr> <tr><td>◇ 80歳以上</td><td>0 人</td></tr> </table>	◇ 30歳未満	0 人	◇ 30歳代	0 人	◇ 40歳代	0 人	◇ 50歳代	3 人	◇ 60歳代	14 人	◇ 70歳代	6 人	◇ 80歳以上	0 人													
◇ 30歳未満	0 人																										
◇ 30歳代	0 人																										
◇ 40歳代	0 人																										
◇ 50歳代	3 人																										
◇ 60歳代	14 人																										
◇ 70歳代	6 人																										
◇ 80歳以上	0 人																										
これまでに高津川流域(益田市・津和野町・吉賀町)に行ったことがありますか。																											
<table border="0"> <tr><td>◇ 益田市</td><td>13 人</td></tr> <tr><td>◇ 津和野町</td><td>16 人</td></tr> <tr><td>◇ 吉賀町</td><td>2 人</td></tr> <tr><td>◇ ない</td><td>4 人</td></tr> </table>	◇ 益田市	13 人	◇ 津和野町	16 人	◇ 吉賀町	2 人	◇ ない	4 人																			
◇ 益田市	13 人																										
◇ 津和野町	16 人																										
◇ 吉賀町	2 人																										
◇ ない	4 人																										
これまでに高津川流域に半年以上の長期滞在もしくはお住まいになられたことはありますか。																											
<table border="0"> <tr><td>◇ 益田市</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ 津和野町</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ 吉賀町</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>◇ ない</td><td>23 人</td></tr> </table>	◇ 益田市	0 人	◇ 津和野町	0 人	◇ 吉賀町	0 人	◇ ない	23 人																			
◇ 益田市	0 人																										
◇ 津和野町	0 人																										
◇ 吉賀町	0 人																										
◇ ない	23 人																										
今後高津川流域への二地域居住あるいはUターンを検討したいと思われませんか。																											
<table border="0"> <tr><td>A 二地域居住を検討している。あるいは検討したい。</td><td>4 人</td></tr> <tr><td>B Uターンを検討している。あるいは検討したい。</td><td>1 人</td></tr> <tr><td>C 他地域との二地域居住を検討している。</td><td>1 人</td></tr> <tr><td colspan="2">・大分県</td></tr> <tr><td>D 他地域へのUターンを検討している</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>E 二地域居住・Uターンいずれも検討していない。</td><td>9 人</td></tr> <tr><td>F 無記入</td><td>4 人</td></tr> <tr><td>G その他</td><td>5 人</td></tr> <tr><td colspan="2">・友人が検討している。</td></tr> <tr><td colspan="2">・主人の意見も参考にして検討したい。</td></tr> <tr><td colspan="2">・考えてはいいかなと思った。</td></tr> <tr><td colspan="2">・退職後に二地域居住をしたい。</td></tr> <tr><td colspan="2">・居住地近隣での農園作業をしたい。</td></tr> </table>	A 二地域居住を検討している。あるいは検討したい。	4 人	B Uターンを検討している。あるいは検討したい。	1 人	C 他地域との二地域居住を検討している。	1 人	・大分県		D 他地域へのUターンを検討している	0 人	E 二地域居住・Uターンいずれも検討していない。	9 人	F 無記入	4 人	G その他	5 人	・友人が検討している。		・主人の意見も参考にして検討したい。		・考えてはいいかなと思った。		・退職後に二地域居住をしたい。		・居住地近隣での農園作業をしたい。		
A 二地域居住を検討している。あるいは検討したい。	4 人																										
B Uターンを検討している。あるいは検討したい。	1 人																										
C 他地域との二地域居住を検討している。	1 人																										
・大分県																											
D 他地域へのUターンを検討している	0 人																										
E 二地域居住・Uターンいずれも検討していない。	9 人																										
F 無記入	4 人																										
G その他	5 人																										
・友人が検討している。																											
・主人の意見も参考にして検討したい。																											
・考えてはいいかなと思った。																											
・退職後に二地域居住をしたい。																											
・居住地近隣での農園作業をしたい。																											

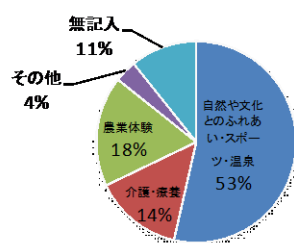
高津川流域での生活に対する期待と不安はなんですか？（上位3つをお答えください）

1 食べ物がおいしい	9 人
2 自然が豊か	15 人
3 温泉が多い	7 人
4 アウトドア・釣り・多種多様なスポーツを楽しむ	5 人
5 仕事が少ない	2 人
6 除雪・雪道の運転	6 人
7 知り合いが少ない	2 人
8 交通の便	8 人
9 医療施設	6 人
10 その他（	0 人
11 無記入	3 人



二地域居住あるいはUターンを検討される場合の目的は？

◇ 自然や文化とのふれあい・スポーツ・温泉	15 人
◇ 介護・療養	4 人
◇ 農業体験	5 人
◇ その他 具体的に（	1 人
◇ 無記入	3 人

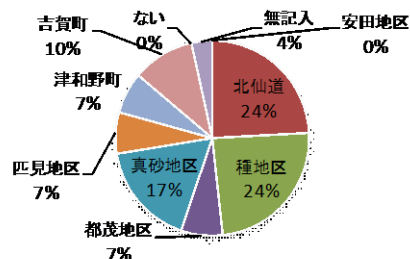


高津川流域に魅力を感じましたか？

◇ 感じた	23 人
◇ 感じない	0 人

高津川流域で二地域居住あるいはUターンを考える場合、一番魅力的に感じた地区はどこでしたか。

◇ 安田地区	0 人
◇ 北仙道地区	7 人
◇ 種地区	7 人
◇ 都茂地区	2 人
◇ 真砂地区	5 人
◇ 匹見地区	2 人
◇ 津和野町	2 人
◇ 吉賀町	3 人
◇ ない	0 人
◇ 無記入	1 人



■モニターツアーレポート結果

【広島】

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

- 時間と説明があまりなかったので行くまで不安を感じた。
- 盛りだくさんだったので、楽しかったが、体験も地区も記憶に残りにくい。
- クラインガルテン小屋については、個人的に古民家がいいなあ。
- 二地域居住については賛成です。
私としては、別荘（セカンドハウス）として、津和野を考えています。
まだ、仕事も生活もちらが中心ですから。
田舎暮らしをしたことがない者が馴染めるか、生活が出来るか疑問です。（特に冬）
- 関係者の熱意はしっかりと伝わりました。
楽しい3日間でした。ありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

川崎市、高槻市の方々は、今までに益田市と交流もある方々のようなようでした。
広島だけでは、全くの白紙での応募で、あまり数に入っていないような・・・？
でも、飛行機待ちの時間に市内観光に連れて行っていただいたり、益田・広島駅間を二人の乗客のためにバスを走らせて下さったりと、私としては、「いいのかな・・・」と思うほどでした。なので、二地域居住、Uターンの地区選定については、真剣にそれぞれの地域をみて、暮らすのならどこがいいか、どの部分はいやだと思うか、考えてみました。

北仙道・匹見は開けた場所で、良いなと思いました。
安田は、山の上で生活の便利さや、冬の道路が心配だと思いました。
種地区の印象は良かったが、あまり周りの様子がわからなかった。
真砂は、若い人が多いという事で、中高年の者の移住は入りにくいかも・・・という印象。

どの地域でも、そこに住んでおられる住民の方々と、こういった関係が持てるかが一番の問題だと思う。

その方々にも自分にも、お互いに良い関係と距離はたやすい事ではないでしょう。

広島からは、遠すぎず、程よい場所だと思う。

田舎ツアーとして楽しめました。
今度は、水仙や巨木を見に行きたい。
もくずがに・あわび・さざえ・はまぐりも味わってみたいです。
民泊もしてみたい。

今回紹介された住宅は、あまり好みではなかった。古民家の方が良い。

【関西圏】

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

この度のツアーに対して、各市町の職員の熱意と行動に感銘しました。
また夫々の地区の住民の心温まる歓迎と人情味溢れる対応に感動いたしました。
各地域とも高齢化と休耕田対策に一生懸命取り組んでおられることは、日本全国の悩みですが、高津川流域の取り組みは画期的で然も実現可能な地域をいかした計画だと思います。

各地域に夫々の目的を持った再生計画があり、大半は永住型の若者を求めていると感じました。

ただ一つ、心配なことは、農業のみでは、若者を定住させる魅力はありません。何か一定した収入を補償できるものを考える必要があると思います。

それが補償され、家と土地を与えて全国的に募集すれば、都会離れの若者が多く応募すると思いますし、またその絶好の時期だと思います。

私は、地域居住型に匹見地区を選びましたが、匹見地区は四季折々に変化する山林や河川、溪谷の美しさ及び温泉に魅力を感じました。

匹見は高槻市から車で5時間で来れますし、多くの目的に対応できる地区だと思います。

最近では、定年を過ぎた年金生活の高齢者が増加し、夫々が何かの趣味を持って活動をしています。

その夫々の趣味をすべて満足させることができるのが匹見です。

例えば、家庭菜園はもちろん、絵画、写真、登山、ハイキング、魚釣り、キャンプ、川遊び、自然散策、彫刻、スポーツ、執筆等々こんなに恵まれた地区はないと思います。

高槻市をはじめ、周辺の文化活動やスポーツ活動団体の交流を促進し、親せきや友人等を誘って、裏匹見のバンガローややすらぎの湯に宿泊して、何処にでも味わえない自然の恵みを満喫していただきたいと思いました。

また、高槻市では小学校や中学校の体験学習の場所がない為、林間や臨海学校に6時間から7時間かけて出かけています。

せっかくの姉妹都市だから、是非匹見町を利用すべきだと思います。

この度のツアーは本当に有意義で良い体験をさせて頂ありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

色々お世話になり、本当に楽しく過ごさせていただきました。

空気の清々しさに本当に気持ちよくこのような所で生活できれば、最高だなと感じました。

若者たちが自給自足はどこも良いところ、北仙道地区、都茂地区、真砂地区等、我々高齢のため、無理のように思いました。

遠すぎるのと、セカンドとしてもつのも少し考えますが、皆様の人柄、優しさに触れうれしく感激して帰ってきました。

また行ってみたいです。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

食料自給率の話が出ていましたが、田舎の田園がたくさん耕作されずに放置されているのを見るたびにその責任はどこにあるのかと考えて今までたくさんの本を読みました。複合してその原因を断定することは難しいですが、事後処理的な政策が彩られて国家の将来に対する対策がないのが残念です。農業や化学肥料から脱出して、農業の労働人口を増やし国産材で新築、改築する方が得になるような政策をとり、国民の病気、医療費を減らし、この素晴らしい農村で暮らす方々が、自然に増える政治が必要だと強く感じました。地域の現状をみて2日間ではありましたが、将来に対して次のような事を考えました。

- (1) 空き家があれば、国産材で改修・改良して希望者が自炊・宿泊できる施設を設備を整え、3日から10日程度の期間、農業・林業体験できるような所を作ってほしい。
1日3,000円程度の宿泊料。観光目的の方はダメ。
- (2) 都会に住んでいる島根県出身者に「県人会」を、市町単位で作るよう呼びかけてほしい。
地元の中学校や高校の同窓会が中心になれば効果的だと思う。
- (3) 津和野の田中海太郎さんの生活スタイルは大変素晴らしい。広く近隣に紹介してほしい。
日本の若者が「なぜ田舎で暮らすのか？」信念を持って、田舎に暮らす夢をもってやってくるなら支えてやってほしい。津和野の糸賀さんは素晴らしい。
- (4) 石見神楽や民謡、太鼓や笛の音、盆踊り、夜空の星。これこそ田舎とゆうものを体験できる旅行企画をしてください。
今回のツアーのお礼として、客集めに協力します。
- (5) 農家に宿泊まりして「農業とは林業とはこんなもの」「なんとか食べていける」と知る機会を過密都市に暮らす人々に与えてほしい。農業法人を設立して設置された土地を開拓して有効利用してほしい。給料は安い、食べるだけの食料があれば、人は安心です。
(大阪釜ヶ崎の道路では、たくさんの労働者が寝ています。日本は矛盾だらけです)
- (6) 交流センターを利用について。生産者と消費者の方々との提携を中心にして、有機農法で生産された農産物の価値を理解してくれる方を増やしていきたい。提携とは農家から消費者への販売行為である。地方空港は、当初「農業空港」として農産物を新鮮な状態を保って都市に空輸されるためにも作られたと聞いています。
消費者が農業生産者、農作物へ積極的に近づいて、初めて成り立つのです。
消費者に支えられて農業であると同時に消費者が新鮮な有機農産物の購入を通じて健康を支えられ、地方の地域や自然環境を健全に支えていくのです。
例えば、高槻市で100軒の方が益田市の農産物を購入するとすれば、毎日プロペラ機の客室にも農産物を積んで運ばなければならないほどになるかもしれません。
「食事療法」がこれからは日本の医療の中心になると思います。癌治療は従来のやり方では完治することが難しいようです。
病気にならないためにも、新鮮な農作物と国産材の家は必要ですね。
- (7) 農業を始めたら、当初は戸惑いますが、楽しいものだと思います。作物は実に正直ですね。益田市で農地見学に行って、木の幹のような作物(たぶんナスかピーマン)の茎を抜きましたが、こんなに大きくなるものなのですね。世話の仕方がはっきりと結果に現れます。
この達成感を味わいたいものです。私が借りている畑の隣には野澤重雄氏が始められた「ハイポニカ農法」でトマトが一株で1万個近く採れています。
信じられませんが、目の前にぶら下がっているのがスゴイ生命の不思議さです。
益田市と高槻市は、提携してスゴイことをやりましょう！
農業体験の機会を増やして、有機野菜を食べる方を増やしましょう。
ヘルシー、ダイエット食、病気予防には食事療養野菜、アレルギー改善、やることはたくさんあると感じました。
- (8) 高津川の清流が世界遺産に登録されるようにがんばろう。とりあえず、日本国内でもっと知られて観光客が増え、さらに居住する方を100人、40家族の目標で頑張りましょう。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

出発の時は、天候不良で飛行機も飛ぶのかと心配しましたが、2日目からは、好天に恵まれ「二地域居住」の候補地の視察、盛りだくさんの体験、はじめてのことだらけで大変感動しました。

自然豊かな土地で生活していच्छる人々に元気をもらいました。

ありがとうございます。

候補地をあちこち回ったので、益田市や津和野町からの位置関係、距離感がつかめなかったのは、一寸残念。

資料にそのあたりが一目でわかると良かったのではと感じました。

現在住んでいる場所から短時間で行ければ、好きなガーデニングをしたり、自分たちの食べる野菜を作ったりするのもいいかなあ…と思います。

ただ、今回、見せて頂いた限りでは、どのくらいの区画で一から畑等を借り手でやるのか？ある程度できた物を提供されるのかも具体的にわかりませんでした。

これから先、事業が軌道に乗る事を！！

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

益田市の6地区とも、有機野菜作り、草餅、そば、柚子、豆腐など大変力を入れておられ、それらをもっと多くの人たちに知ってもらい、買ってもらうため、そして美しい自然、きれいな高津川、温泉、美味しい自然食などPRするよう都会のデパート、スーパー、農協などで益田市物産展をたびたび開き、また、旅行会社など協力して、ツアーを組み、登山や観光でよく地区を知ってもらう。

それと同時に、二地域居住を進めていく。

そして、居住するには、収入がないと難しいので、企業誘致など考えてほしいと思います。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

ツアーに参加して、目から鱗が落ちる感じです。感激です。

山、木、川、海、土地、それに食物健康、これからの将来のあり方考えさせられました。

有機農業が吉賀町で30年前から実践していたと知りませんでした。

それを自分たちだけで食べるのではなく、町の人に分けてお互いに信頼が生まれます。

天野先生の話も分かりやすく、二地域居住の意味も少しだけわかりました。

そば打ち・豆腐、初めての体験で、やってみたいなあーと思っていたので、楽しかったです。

ゆずの大きさは感動。益田市のみなさまの笑顔と優しさにありがとう。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

大自然の雄大さに圧倒されました。
まだまだ自然は、こんなに多く生きていると。

各地域の甲乙つけにくい素晴らしい処ばかりでした。

小さな質問にも、ニコニコと答えれくださり、土地の人たちの温かさを感じ、この人たちと常に接していきたい、そんな気がいたしました。

それぞれの初めての体験も楽しくできました。

担当の方々には大変お世話になりました。

ありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

戦後の日本の懐かしく良き原風景が残っていると感じました。
童謡にある“ふるさと”の言葉を思い出させる美しい山、川、野が目の前にひろがっていました。

地元で採れた新鮮な食材を使った食事は完食しました。
ただもっと、アユやヤマメ、山グリ、柿などがあると良かったなと思いました。
草餅などは、益田地区にセカンドハウスを真剣に考えている彼女からお土産に買って来てと言われていましたがなかったので、残念でした。

今回モニターツアーという事もあったかもしれませんが、何処へ行っても地元の人々の温かさ親切さに改めて日本人とはこうなんだ・・・と確信しました。

私も主人の転勤で大阪の地に来て住み着いておりますが、それまでは、愛媛県の松山市で生まれ育ち、専業農家でした

高津川流域には、今から50～60年前の日本の素晴らしさが残っていました。
次はゆっくりと行きたいです。

本当にありがとうございました。
感謝申し上げます。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

温泉気分の抜けきらない2日目、わさび漬体験。

辛味成分で目に涙をためながら、一生懸命頑張って、ビン詰めに成功。

とてもうれしかったです。

市場にでたら、来年は必ず漬けようと思います。

クラインガルテン小屋は、杉か檜の香りでしょうか。とても気分が落ち着き何ともいえない心地でした。

津和野町稻成神社、とても立派でした。

柿木村有機農園、大根抜き楽しかったです。

80歳を超えた方、30歳のうら若き女性の農業に対する希望溢れる態度に関心しました。

嬉しそうに楽しそうに会話ができて、頑張っている姿はとても美しいですね。

これから先、明るいですね。

草餅作り体験、そば打ち体験、忘れられない思い出になります。

郷土芸能石見神楽は、軽快・激しい八調子の囃子と舞に感激しました。

長い時間は体力がなかったら、舞う方も囃子の方も大変ですね。

カレンダー買いそびれたのが残念です。

書きたいことはたくさんありますが、メガネを忘れ、字があまり見えません。色々たくさん体験させて頂き、本当にありがとうございました。

頑張る力、元気をいただき感謝しています。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

初日の天候には悩まされましたが、2日目、3日目と晴天に恵まれ最高のモニターツアーになりました。

農林水産課の方々も親切に案内され、また、地区ごとに皆様温かく出迎えてくださるし、説明も作業の方も和気あいあいと教えて頂き、皆さんの気持ちが温かく伝わってきました。

* わさび漬け体験→涙を流しながらの作業でしたが、食べるのが楽しみです。

* 草餅作り体験→杵つき機械を始めてみましたが、簡単においしいもちが出来上がり、草餅とても美味しかったです。

* そば打ち体験→初めての体験でしたが、そばを作るのは簡単のようで難しい作業でしたが食べるのは、美味しかったです。

* 柚子の収穫体験→たくさんの柚子が一本の木についていたのはびっくり。帰ってから、柚子ジャムを作っていただきます。たくさんありがとうございました。

* 豆腐作り体験→作りたての豆乳を飲み、また、豆腐も作りたてで、若い人がおい地区と聞き、これからが楽しみです。

全体に益田市は、とても観光に力を入れられ、見るところもたくさん名所があり、何回でも行きたい市ですが、交通が不便なところが一点あると思います。

関西からは遠いですね。

一昨年、ホテル観賞の際には、お世話になりました。

クライנגルテンには、年齢的には無理ですが、若い人には最高な生活かもしれません。

【関東圏】

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

都市と田舎の二地域居住、本当にこんな優雅な生活ができる人が何人いるでしょうか？

私は、この事より、もっと若い人達に向かって、今、農業の大切さや、食についての大切さ等を見聞きしてもらう事の方が良いのではと思います。

都会で物産展があれば、どの県の物産展にも、人の行列ができています。
有機農法が良いことは、知っています。

でも、スーパーの特売で、野菜が安ければ皆そこまで感じえず、並んでいると思います。
それが、現実なのではないでしょうか？

私は、少なくとも外国産のものだけは買わない。
生産者のわかる物をなるべく買うようにしています。

このモニターツアーに参加させていただき、益田市役所の方々本当にありがとうございました。

益田が今以上に発展されるよう祈っております。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

二泊三日はちょうど良い内容で盛りだくさんではありましたが、素晴らしかったです。

参加したメンバーとの触れ合いや地元住民の方との体験活動など楽しい時間を過ごさせて
いただきました。

多くの人たちとの大切な時間をありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

主催者及び訪問先々の関係者に心から感謝申し上げます。

二地域居住の難題に、金があります。
国や自治体が、例えば、二地域居住に滞在したい方には交通費を半額以上補助するなどの
妙案を出さなければ、なかなか集まらないでしょう。

地方の活力と自然食料、環境保全、人々の交流等を考えると、ぜひ補助等を検討すべきだ
と思います。

特に国ですね。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

手作り、無農薬野菜を見学・体験し、とても美味しく安心していただきました。

これを多くの人が口にするには、輸入品をなくし、国の食料・自給率を高めるための運動をしたいと思います。

今回参加できなかった主人にツアーの話をし、感想を書いております(別紙)

最後になりましたが、2日間お世話になり、ありがとうございました。

《別紙》ご主人の意見

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

過疎化に悩む現地の農林水産従事者が、最も望んでいることは何でしょうか？

恐らく、これ以上の「人口流出」のない事、Uターンによる後継者の確保でしょう。特に農村においての現状は、テレビでもよく放映されているし、旅先でよく見かける「荒れ果てた休田」などを目にとると、なぜ、我が国の食料自給率が39%かつ年々低下していくのか疑問を抱きます。要は、国や自治体が根本的な対策をとらないが故に、農業が魅力のないものと化していると思わざるを得ません。

残念ながら農業には疎いので、どう政策をとればいいのかはわかりません。ただ時々、昔でもみかける地域特産物の直売などが人気があり、補助金などの交付で活性化するのは一策ではないかと感じます。

ところで、「都市と田舎の往復居住」が、その解決策になりうるのでしょうか？
どのような方々に往復居住を期待されているのですか？

都市生活者の大部分は収入の基盤を都市に置き、ゆとりないぎりぎりの生活者です。

脱サラを推奨しているのですか？

まさか年金生活者に期待しているわけではないですね。

現社会では、二地域居住など可能な者は、ある程度裕福な自由業(時間的な自由者も含めた)だけではないでしょうか？

もちろん、私たちの周辺のサラリーマンにもいわゆる田舎地区に居住らしいものを持っている方もおります。

しかし、年間何日そこで生活できるとお考えですか？

とても農業に従事するなどの時間的余裕はありません。

また、スーパーでの安い食料品を仕入れての出発で、現地での調達ほとんどなく、活性化にはつながっていません。

「第二の親類のような関係」を期待するには、相当の努力が必要です。

ただし、二地域居住を全面否定するものではありません。

養老・資料1に示されたそれなりの効果はあるでしょう。ただ、現地の方々に「単なる金持ちの趣味と暇つぶし」(往々にしてそうゆう人が多い)との誤解を生じてはかえってマイナスです。もっと最初に述べた抜本的対策は何なのかに精力を注いでほしいというのが本音です。

最後に養老先生の二地域居住を「現代の参勤交代」と称しているのには抵抗があります。家庭との生活を引き裂かれ、2重生活による無駄な出費を強いられるサラリーマンの単身赴任こそ「現代の参勤交代」です。江戸時代の参勤交代は、地方自治と財力を弱めるのが目的ですから。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

- ①急な話であり、準備することなく出発してしまいました。
個人としての準備は何をするべきかはわかりませんが・・・
- ②期間・人数も適当だと思います。二地域居住との方向性もはっきりしていて良かった。
- ③どの地域に行っても、地域の方々が、一生懸命対応して下さり、人との交流については入りやすかった。
- ④ご案内の職員の皆さんの一生懸命さが伝わってきました。
こちらに来てみたいと思わせる環境の良さをうまく引き出して案内していただきました。
- ありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

見学、視察6ヶ所、講演・交流、わさび漬けやそば打ち、豆腐づくり体験等、てんこ盛りで矢継ぎ早なプログラムだった。

それ故、「都市と田舎二地域居住」のモニターという本来の目的が霞んだ感が否めない。あれもこれもとめいっぱい詰め込まずに、ポイントを絞り込んで、じっくりと見学や視察をしたかった。それぞれの体験は楽しく、実際に行ったことで多くの気づき(たとえば、ワサビの葉を刻んだ時、揮発性の成分が目を刺激し涙が出ることを初めて知った)があった。

しかし、下準備はすべて地元の方々が担ってくださり、私たちはヤマ場の部分だけを体験するという虫の良さで、申し訳ない気持ちになった。

私たちを、迎え入れるために、表には出てこない部分で、手を煩わせたことだろうと思う。

「二地域居住」を考えたとき、神奈川県川崎市と島根県益田市の二地域居住というのは時間的・距離的・経済的に困難であると思われる。

益田市に車で2時間くらいの距離にある都市にお住まいの方なら実現可能だろう。

年齢的には、子育てを終え、そろそろ定年を迎える50歳代後半くらいであろう。

消費生活にどっぷり浸かって疲弊してきた都市部の人間にとって、食べ物を自分の手で作って食すという生活によって、これまでの価値観が覆えり、新たな価値を発見し充実感を覚えることと思う。

ゆっく散策できなかったが、裏匹見峡はまさに深山幽谷で自然がいっぱい。レストパーク付近は工夫次第で自然の営みと人とのつながりを学べる場になるのではないだろうか。動植物をテーマにしたネイチャーゲームやサバイバルゲームのイベント等を開催し、生物としての人間を自覚する場になれば面白い。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

モニターツアーは初めてで、二地域居住（現代の参勤交代論）も知らずに参加しました。
高津川の見学では、自然との調和の楽しさや、難しさ、農作業や物作り体験では有機農法の
大事さや、古くからの技術（知恵）がいかに素晴らしいものかを知りました。

二地域居住の提案は楽しく夢のあるものですが、それなりの費用もかかるし、体力・知力も必
要ですので、若いうちに計画し、時期を見て、実行する。
U・Iターンの場合には、強い意志を持つことが必要ではないでしょうか？
余暇でやるもの、実業としてやるものの違いを認識しなければならない。

今回参加させていただき、美しい田園の見学と貴重な物作り体験をしました。

ありがとうございました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

今回は天候にも恵まれ（第1日目は別にして）人が少なく、車が少なく、のびのびとした雰囲気
が味わえ、いろいろなお世話をいただいた益田市役所農林水産課関係の皆様の優しさ、そし
て、いろいろ体験させていただいた関係者の皆様の心遣いがすべて嬉しく意義のあるツアー
になりました。

川崎の子供たちのサマースクールは、ずっと続けたいものですね。
それを通して、農業・林業等について知識だけではなく、生きた体験をさせ、将来幅広い、見方
のできる興味や関心を広くもてる人間育成をさせたいと痛感しました。
さらに、個人的には冬期の益田市の生活も経験できる機会をつくりたいと考えています。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

養老さんの「現代の参勤交代」に全面的に賛成です。
日本の今抱えている様々な問題に対して、社会全体で生き方を含めて考えて行動しないとい
けない時期に来ていると思います。
その様な意味で、益田市の取り組みは素晴らしい事です。

一番感じたのは、市役所の方と市民が一体となっていること。各地域が特色をだして、競争し
あって活性化につなげていることです。

私は、ふるさと会の副会長で年間を通して、町の活性化になるよう広報や交流の事業をして
いますが、町役場や町に住む人の意識が変わらなければ、効果は上がりません。
費用の問題ではなく、弱体化していく状況をどう考えるかだと思います。
その意味で、今回のモニターツアーは良かったと思います。

課題は、東京から遠いという事・交通費がかかりすぎるという事です。
気軽に通えるようになると、希望者も増えると思います。

3日間お世話になりました。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

天野先生のご説明やお話で、高津川流域の魅力を知ることができたり、二地域居住の意義について、理解できました。

食料自給率が日本は極めて低いことは認識しており、都市でも地場産の食材を見直し、地産地消の動きが活発である。

私も田畑をグループで管理運営しているので、今回のツアーは大いに勉強になった。

この訪問で、地区の比較をするのに、データがなく、あくまでも印象情緒的な選択になった。

比較をする上でのデータが例えば

- ①村落戸数
- ②居住人口人数
- ③市街地までの距離
- ④自治組織
- ⑤地域の広さ
- ・・・等が示されていると良い。

また、公共施設(学校とか病院)の点在が不明なので、有事の場合はどうなのか？は今回の調査で不安が残った。

しかし、高津川流域や益田市の取り組みには、大いに賛同でき、1人でも多くの人が居住されるといいと思った。

市民農園で働く人、Iターン者の話、草餅、そば打ちなどの体験での地域の方々の親しみやすさや親切さはとてもすばらしい。

益田に何回も訪れても、裏切られることはない。

温かみ・人間の素晴らしさを味わえたモニターツアーでした。

ありがとうございました。

<追記>

木造農業小屋は、デザイン・広さとも大変良かった。

3 最後に今回のモニターツアーに参加されての総合的な感想をお書きください。

今回訪問した地域が、モデル地域かどうかわかりませんが、各地域とも独自の啓発やPRパンフを制作していて熱意を感じ取ることが出来ました。
確かに人口が減少し高齢化率が高くなっているかもしれませんが、地域の高齢者が元気そうなので積極的にPRして受け入れ環境を整えていけば可能性は大きいと思います。

PR資料にはその地域の自然や生活環境などを詳しく箇条書きで列挙すると安心感が増すのではないのでしょうか？

(スポット写真なども添付して)

* 最寄り駅(バス停まで〇分)、海まで、川まで(魚はいるか、漁協にはいれるか)、学校は、医院は、店舗まで〇分、集落人口、山の入会権(山菜取り、枯木、落葉、竹などの利用)、ガルテンセンターはあるか、(地域の誰が相談役か)、野菜作り講習会、木工講習会(機器の貸与)、竹細工講習会(竹が豊富なので、冬場の家内作業に向いている)などが行われると良いのではないのでしょうか。

* 居住するための積算金額を明示してほしい。
(用地費・住居費・借地(農地)費・ライフライン設置工事費など)

* 有機農法は大賛成です。PRにちからを入れ、都会と産直ネットワークを作り発展できればと思います。

* 休耕田をもっと活用すべきであろうと考えます。

3-2. シンポジウム、集落座談会の開催

① シンポジウム「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」の開催

■シンポジウムチラシ

シンポジウム

2010年 10月 17^(木)日 13:00～15:30

●島根県吉賀町立 柿木体育館 定員 1,000名(入場無料)

二地域居住

「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」



私は、現代人も“参勤交代”をすべきだ、と考えます。

都会人は時々田舎に出かけて、心身共にリフレッシュする。小さな“木の家”を建て、畑を耕し、自給自足の手段を確保しておけば、災害時も安心だ。自分が選んだ田舎で、第二の親類をつくるのもいいじゃないか。

木の家の良さも見直されている。木の校舎で学ぶ子供たちは「心が和やかになる」という統計も報告されている。

まずは週末に、田舎へ出かけることから始めてみては。

養老 孟司



島根県吉賀町柿木村で有機農業を体験

●主催：清流高津川を育む木の家づくり協議会
日本に健全な森をつくり直す委員会

●後援：農林水産省、島根県 ●協力：山陰合同銀行

お問い合わせは、事務局 TEL 0856-79-2535

●国土交通省助成事業

■シンポジウムチラシ（裏面）

2010年10月17日 13:00~15:30
●鳥根県吉賀町立 柿木体育館 定員 1,000名(入場無料)

- ◆13:00 開会挨拶
中谷 勝(吉賀町長)
- ◆13:05 来賓挨拶
和泉 洋人(内閣官房・地域活性化統合事務局局長)
知事メッセージ
溝口 善兵衛(鳥根県知事)
- ◆13:15 基調講演
「私は何故、現代に“参勤交代”を提案するのか」
養老 孟司(東京大学名誉教授、「木の家づくり」から
林業再生を考える委員会)(国土交通省住宅局主管)委員長)
- ◆13:35 講演
「銀行家たちが日本の森について心配していること」
古瀬 誠(山陰合同銀行頭取、「木の家づくり」から
林業再生を考える委員会)委員)
- ◆13:50 休憩
- ◆14:00 パネルディスカッション
「高津川流域から現代の“参勤交代”を実践してみよう」
パネリスト
福原 庄史(NPO法人「ゆうきびと」代表、吉賀町柿木村在住)
松本 公一(鳥根県農林水産部次長)
小池 一三(「町の工務店ネット」代表、
「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員)
竹内 典之(京都大学名誉教授、
「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員)
中島 浩一郎(銘建工業代表、
「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員)
下森 博之(津和野町長)
進行
天野 礼子(作家、「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員長代行)
- ◆15:25 閉会挨拶
福原 慎太郎(益田市長)

「清流高津川を育む木の家づくり協議会」

過去に2度「清流日本一」となった高津川に生かされている一市二町の住宅・林業関係者と行政が、養老孟司ら外部有識者の協力を得て、昨年より、高津川流域の森林(もり)を生かして生きてゆく手法を協議している。現在、「木の家コンテスト」の作品募集を行っている。

会 員
株式会社リンケン(会長) 株式会社森本建設 百合本建築設計事務所
高津川森林組合(副会長) 株式会社益田原水市場 高津川流域林業活性化センター
有限会社万設計(監査) 株式会社佐々木馬一商店 益田市
大畑建設株式会社 株式会社又賀製材所 津和野町
有限会社住宅産業 安野産業株式会社 吉賀町

「日本に健全な森をつくり直す委員会」

2008年に結成。09年9月、提言書「石面に頼らず、森林(もり)に生かされる日本になるために」、新政策に手渡したことがきっかけになり、林野庁が「森林・林業再生プラン」をつくらせた。近年の「林業再生」における立役者ともいべき面々が揃っており、各地で「21世紀を森林(もり)の時代にする」ためのシンポジウムを重ねてきている。

委員長 養老 孟司(東京大学名誉教授) 委員 天野 礼子(作家)
副委員長 C・Wニコル(作家) 竹内 典之(京都大学名誉教授)
中島浩一郎(銘建工業(株)代表)
など17名

「“木の家づくり”から林業再生を考える委員会」

政権交代後、林野庁では「森林・林業再生プラン」が作られた。そして、国土交通省内に作られたのが当委員会、養老孟司を委員長に、今回のシンポジウムの出演者らが委員を務め、林業の「川下(かわしも)」政策を考えている。「二地域居住」は、養老の持論(現代の参勤交代論)が政府の「新成長戦略」政策に取り上げられたもの。今回、高津川流域をそのモデルの一つにする可能性を議論し、流域の「林業再生」と「木の家づくり」推進に役立てようとしている。

プレゼント

高津川流域の暮らしや自然を紹介した冊子「高津川と、森と、家と。」を先着100名の方にプレゼントします。ハガキに、冊子希望とお書きの上、①ご住所 ②お名前 ③電話番号 を明記して下記宛てお申し込みください。〒699-5301 鳥根県鹿毛郡吉賀町柿木村柿木625-3
「清流高津川を育む木の家づくり協議会」事務局

シンポジウム

「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」



ようろう
たけし
養老 孟司

●東京大学名誉教授
1937年、鎌倉市生まれ。東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入る。著書は、大ベストセラーとなった「バカの壁」ほか、哲学から社会時評まで多数。趣味のブウムシ採集を通して、森をはじめとする自然環境の変化に警鐘を鳴らす。「日本に健全な森をつくり直す委員会」と、国土交通省の「木の家づくり」から林業再生を考える委員会などの委員長を務めている。



ふるせ
まこと
古瀬 誠

●山陰合同銀行頭取
1946年、鳥根県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、山陰合同銀行入行。2007年に頭取就任。「ごうさん希望の森」(山陰4ヶ所)における役職員の森林保全活動や、「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」事務局運営に取り組み。「日本の森を守る地方銀行有志の会」副会長、「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員。



ふくはら
あつし
福原 庄史

●NPO法人「ゆうきびと」代表
1949年、鳥根県柿木村生まれ。72年より柿木村役場勤務。自給を優先した山村の小農運動を模索。80年、生産者と消費者の提携を開始し、81年に柿木村有機農業研究会を設立。91年、柿木村総合振興計画で「健康と有機農業の里づくり」が位置づけられる。退職後は有機無農薬栽培で、自給を確立した農業を営んでいる。



まつもと
こういち
松本 公一

●鳥根県農林水産部次長(農業担当)
1952年生まれ。77年に鳥根県職員として採用される。採用後、農業改良普及業務、県立農業大学校にて農業後継者育成業務、鳥根県九州事務所にて流通行政、県庁及び農林関係の地方機関における農林行政に携わり現在に至る。



こいけ
いちろう
小池 一三

●「町の工務店ネット」代表
1946年、京都市生まれ。OMソーラー協会設立に参加。ソーラー住宅の普及に尽力。「近くの山の本で家をつくる運動」宣言を起草。「愛・地球博」にて地球を愛する100人に選ばれる。「森里海連環学」実践塾塾頭、(有)小池創作所代表。著書に「樹の家」「いい工務店と家のづくり」など、「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員。



たけうち
みちゆき
竹内 典之

●京都大学名誉教授
1944年、京都市生まれ。京都大学では演習林長、フィールド科学教育研究センター副センター長・森林資源管理学教授。「明るい人工林づくり」を目指す、日本の人工林研究の第一人者。人工林の密度管理、森林資源の持続的な管理技術の提案などを行っている。「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員。



なかしま
こういちろう
中島 浩一郎

●銘建工業株式会社代表
1952年、岡山県生まれ。横浜国立大学文学学部卒業後、銘建工業入社。同社は構造用集成材の国内トップメーカー。岡山県真庭地域の森林バイオマス活用プロジェクトの中心的存在。特にバイオマスエネルギーの活用を推進している。NPO法人真庭塾塾長、「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員。



あめの
れいこ
天野 礼子

●作家
大学在学中の19歳より釣りを始め、国内外の川、湖、海を釣り歩く。1988年、文学の師・岡田高健と共に、長良川を象徴として、日本の川を問う国民運動を立ち上げた。高津川では、山陰中央新報社のカルチャー教室「自然に学ぶ“森里海連環学”」を展開中。近年は森に関する著作も多い。「木の家づくり」から林業再生を考える委員会)委員。

■シンポジウムの様子



参加者数：約400名

② 集落座談会の開催

座談会講師として作家天野礼子氏を招き、選定した6地区での集落座談会を開催し、地域住民とともに、二地域居住、有機農業等に関する意見交換会を開催。

■実施日：平成22年11月29日

■開催場所：益田市美都町都茂1692 ふれあいホールみと

■参加者数：約40名



天野礼子氏の講演、意見交換会。(対象地区：都茂地区、真砂地区)

■実施日：平成22年11月30日

■開催場所：益田市大草町665-1 北仙道地区振興センター

■参加者数：約50名



天野礼子氏の講演、意見交換会。(対象地区：北仙道地区、種地区、安田地区、匹見上地区)

地域住民とともに、二地域居住、有機農業等に関する意見交換会を開催したことで、地域住民に対して、二地域居住に対する農村の役割について気づかせることができた。

3-3. 広報活動

① [現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ] 高津川流域ノートの作成

■ 1,000部作成

<外面>



② 二地域居住に関する取組み及び空き家情報の発信、並びに空き屋情報の収集

「益田森林・林業普及情報」 http://blog.goo.ne.jp/f-masuda_001

「益田市HP」 <http://www.city.masuda.lg.jp/>

「津和野町HP」 <http://www.tsuwano.ne.jp/town/>

「吉賀町HP」 <http://www.town.yoshika.lg.jp/>

県・市町ホームページ等により、清流高津川を育む木の家づくり協議会による二地域居住推進のための取組みや、都市等への空家バンク制度等の情報発信を行った。

4. 本事業の成果と課題

<成 果>

(1) 二地域居住型（高津川流域型）クラインガルテンの整備のための調査

全国の滞在型クラインガルテンや有機農業等の推進に係る先進的な事例を研修したことで、高津川流域圏にある多様な地域資源を活用した、全国に無い「高津川流域型クラインガルテン」を整備するために、有機農法を教えてくれる「有機市民農園」をまずつくって、そこに都市居住者を通わせ、次に「小さな木の家」をつくるという実現のための整備推進気運を醸成することができた。

また、モニターツアーを開催し、都市住民との交流が図られたことで、高津川流域の多様な地域資源を全国各地から訪れる都市住民に提供することができるという自分達の地域の魅力を再発見させる取組みとなった。

(2) シンポジウム、集落座談会の開催

シンポジウムの開催や地域住民とともに集落座談会を開催したことで、都市と農村を結ぶ二地域居住の効果がPRされ、高津川流域材を用いた木の家づくり等の機運が高まり、高津川流域の総合的な地域活性化を目指し、内閣府の「地域活性化総合特区」申請等による新たな事業への取組みが、他の関係者も巻き込んで検討されるようになった。

(3) 広報活動

民間事業者等が主体となって、古民家再生や空き家を活用した事業が新たに展開されるようになった。

また、[現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ] 高津川流域ノートを作成したことにより、ノートを活用しながら都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進を今後も効果的に図ることができる。

<課 題>

高津川流域の定住・交流を推進するためには、吉賀町柿木村で取組んでいる有機農業や流域材を活用した木の家づくり、空き家を活用した「高津川流域型クラインガルテン」を整備することが有効であり、実現するためには、まず、クラインガルテン（有機市民農園）を開設し、有機農法を教えてくれる指導者の確保、担い手の育成を行うことが必要となる。

また、「二地域居住」の次にある「定住」を目指すためには、そこに都市居住者を通わせるための流域住民の意識改革を行うことや中山間地域においては、他人に貸したくないなどの理由で空き家の確保が困難な状況もあることから流域住民の意識の醸成が必要となってくる。

5. 今後の活動の方向性

(1) 有機農業や高津川流域材活用を視点としたクライנגルテンの整備

全国のクライנגルテンを視察していく中で、先進地においては有機農業が一つのキーワードとなっている。

吉賀町柿木村では、約30年前から地域が一体となって環境にやさしい有機農業に取り組んできているが、益田市、津和野町においても、安全・安心な有機無農薬農産物の栽培を推進し、有機農業に対する流域住民の意識改革が必要となる。

今後は、市町村やNPOと連携し高津川流域に有機農法指導者のいるクライングルテン「有機市民農園」の開設を目指し、有機無農薬栽培、緑豊かな景観づくり、そして都市と田舎の活気ある交流を掲げ、そこに向けた流域の木材を使ったラウベやセカンドハウスの建設促進を図り、古民家の再生や、空き家の活用等も進めながら、一層の地域経済の活性化を図ることとしている。

(2) 高津川流域三市町と民間事業体が連携し「地域活性化総合特区」等の事業に挑戦

島根県石西地区（益田市、津和野町、吉賀町）は、平成19・20年度清流日本一に選ばれた一級河川「高津川」が貫く地域で、高津川は豊かな山林や水田・畑作地帯を抜け日本海に注いでいる。

吉賀町柿木村では国内でも早い段階で有機農業の取り組みが始まり、益田市は県内多数の施設園芸地帯を有し、西の小京都と呼ばれる津和野町をはじめ数多くの文化・観光資源にも恵まれている。

一方、過疎化発祥の地と言われる益田市匹見町をはじめ、過疎化・高齢化が進み、農林水産業の後継者は基より地域の担い手全体が不足し、いわゆる限界集落・危機的集落も存在する。このような状況下にあって、この地域を持続可能でかつ活力のある地域とするためには、多くの新たな定住者や継続して地域を支援してもらえるサポーターを増やすことが課題である。

豊かな地域資源を有効に活用し、特に若者が抱く価値観にマッチする生活・産業等の条件を整備することにより、地域の高齢者をはじめ多くの人々の生活や活動の場の創造と交流人口や定住人口の増加につなげ、石西地域の活性化は基より、県下で同様な状況にある地域のモデル的实践事例とする。

《 資 料 編 》

清流高津川を育む木の家づくり協議会会則

(名称)

第1条 この会の名称は、「清流高津川を育む木の家づくり協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、高津川流域の森や水の保全に資する流域材の住宅等への活用や、流域資源を活用した地域の発展を目的とする。

(活動)

第3条 この会の活動は次のとおりとする。

- (1) 高津川流域の木材を主体とした地域資源を活用した家づくりの推進に関すること。
- (2) 高津川流域の森や水を育む活動に関すること。
- (3) 高津川流域におけるニューツーリズムの推進に関すること。
- (4) その他、会の目的にそった活動。

(会員)

第4条 この会の会員は、会の目的に賛同した者（団体含む）を以って構成する。

(役員)

第5条 活動にあたっては運営委員会を設置し、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監事 1名

(役員の任務)

第6条 役員の任務は次のとおりとし、任期は2年とし再任を妨げない。

- (1) 会長は運営全般を掌理する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会計を掌理する。
- (3) 監事は会計を監査する。

(運営委員会)

第7条 運営員会は会長が招集する。

(事務局)

第8条 事務局を会長の所属する会社に置き、事務全般を行う。

(運営費)

第9条 この会の運営は、会費、補助金、協賛金、その他の収入で行う。
徴収方法等は協議のうえ別途定める。

(その他)

第10条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は運営委員会で決定する。

附則

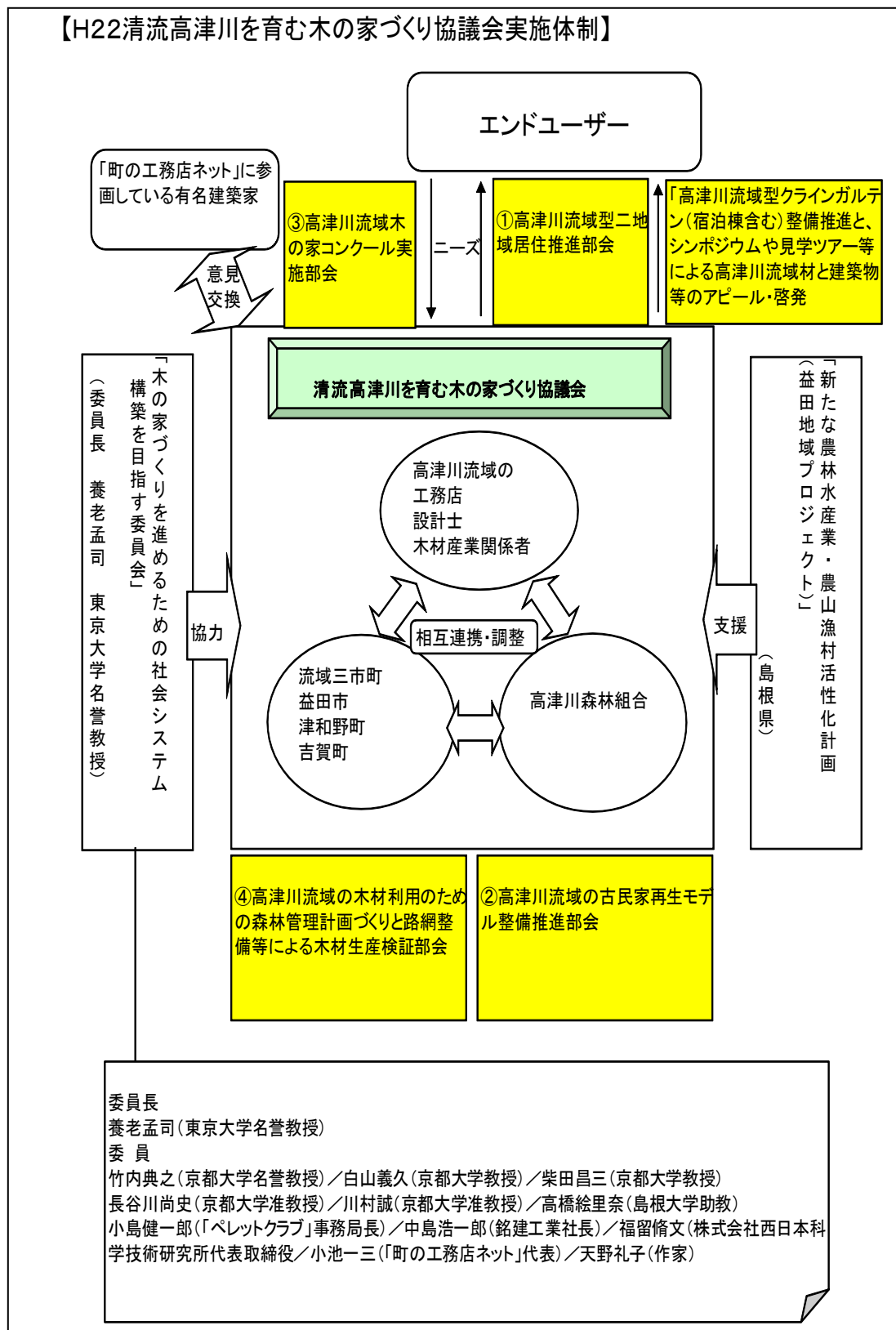
この会則は平成21年3月18日から施行する。

協議会会員名簿

清流高津川を育む木の家づくり協議会

会員名簿

住所	分野	会員名（団体名）	役職
吉賀町	工務店 木材	株式会社リンケン	会長（事務局）
益田市	製材 木材	高津川森林組合	副会長（会計）
益田市	設計	有限会社万設計	監事
益田市	工務店	大畑建設株式会社	
益田市	工務店	有限会社住宅産業	
益田市	工務店	株式会社森本建設	
益田市	木材市場	株式会社益田原木市場	
益田市	製材	株式会社佐々木馬一商店	
益田市	製材	株式会社又賀製材所	
益田市	製材 木材	株式会社安野産業	
津和野町	設計	百合本建築設計	
益田市	行政	益田市	
津和野町	行政	津和野町	
吉賀町	行政	吉賀町	
益田市	推進団体	高津川流域林業活性化センター	
	15団体		



〔益田市匹見上地区でのクラインガルテン構想（案）〕

高津川らしい

農園付き住宅に向けて

「小屋を建てられる場所を残らず調べる」

・地域産材利用

・地域資源の有効活用

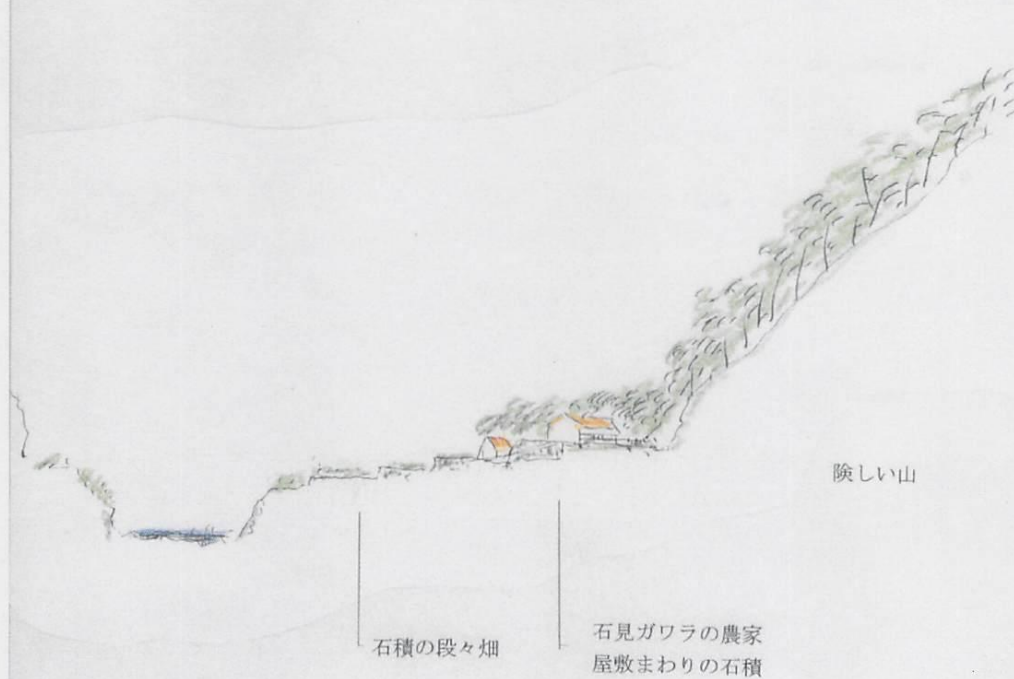
21Jan. 2011

PLAMTAGO

田瀬 理夫

高津川流域ふるさと構想

こんなところに住んでみたい！！

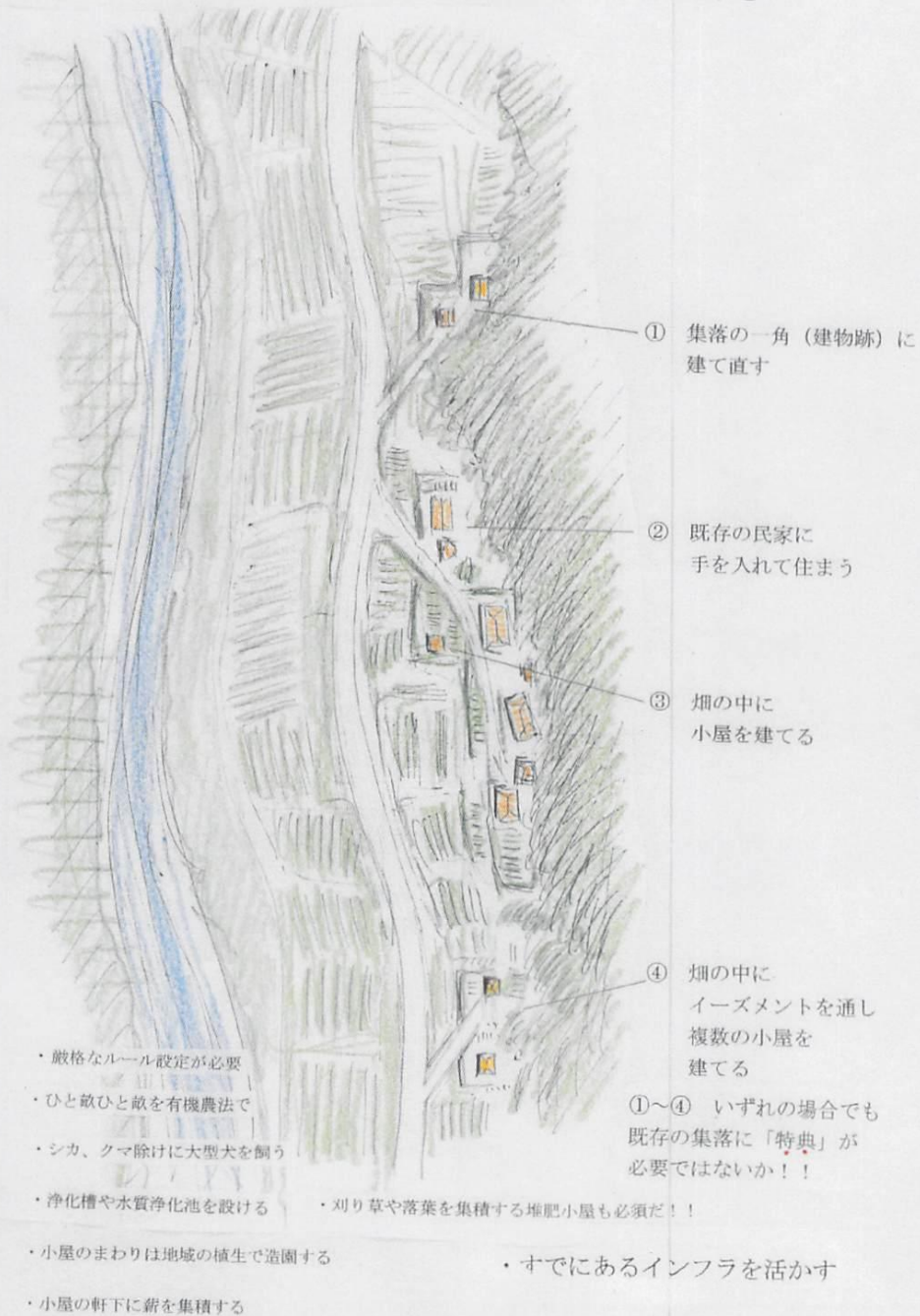


川の音が聞こえる
くらいのところに・・・
あれば尚良い

既存の小集落の一角に、
小さな小屋と小さな畑があれば良いのだけれど・・・！

- ・ 石見ガワラか草屋根の小屋
- ・ 薪ストーブ、OM ソーラー

高津川流域の小集落の一角に小さな小屋があれば良いのだけれど・・・

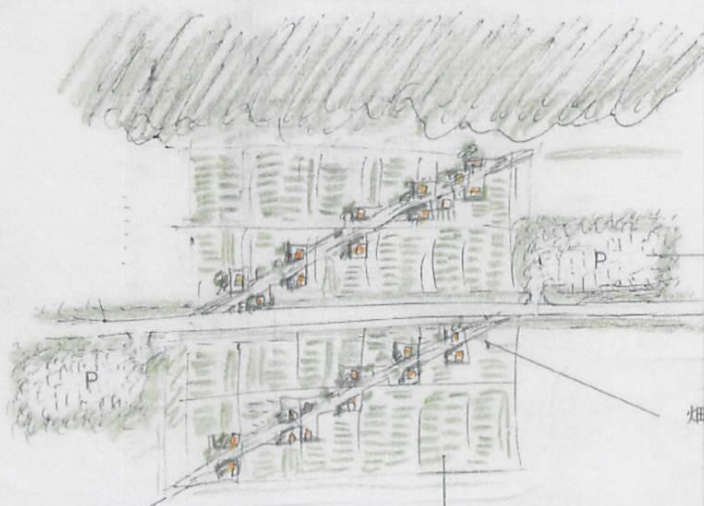


高津川らしい「クラインガルテン？」



アロットメント

均一区画は
高津川らしく
なりそうもない！！



山林

100種の樹林
に囲まれた
パーキング

畑をぶち抜くイーズメント
EASEMENT

浄化槽システム
水質浄化池も必要

既存の農地

- ・農作業の径
- ・コミュニケーションの径
- ・景観形成の主軸となる
- ・次世代に向けてのインフラ

次世代のインフラとなる EASEMENT (イーズメント)

高津川らしい

昆虫館、直売所、癒しの森に向けて

既存インフラの構造変換

地域の宝物と成るようなものを、ひとつひとつ、場所を選んで、読えていくこと！
街歩きをしたくなるような集落にしよう!!

21Jan. 2011

PLAMTAGO

田瀬 理夫

レストパーク、ウッドパーク、匹見中央公園などは
全国どこにでもある「施設の風景」といってよいでしょう。

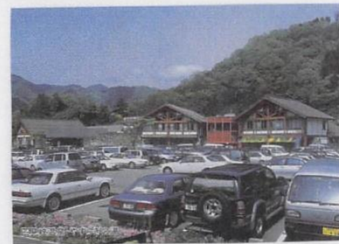
‘益田らしさ、匹見らしさ’ではなく、全国横並びの眺めです。

木質系でも、「全国どこでも」の設計ですから、
地域の空間スケールにフィットしていない。
異和感を感じるもので、魅力ない光景です。

広見川の川辺から見る中央公園の大造成法面

ウッドパークの変な芝生、と駐車場
(〜ゴルフ？)

レストパークの無理を重ねた駐車場群、
どこも車を眺めて、食事をし、キャンプをしている異和感、
木をいっぱい使っているけど、すわり心地の良くないテーブル、
イス、レースのカーテン、カベ紙、貼紙の中での食事



レストラン・クックハウス



高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業 報告書

平成 23 年 3 月発行

国土交通省「長期優良住宅等推進環境整備事業」

清流高津川を育む木の家づくり協議会

(高津川流域 11 事業体、高津川流域林業活性化センター、益田市、津和野町、吉賀町)

事務局 株式会社 リンケン

TEL : 0856-79-2535

FAX : 0856-79-2482